

天地110mm×左右120mm

きあぐ ばなむ

第17回
平成20年7月

電車社会からの脱却

▼前回は郡山市のIご夫妻が電車利用で当旅館に宿泊に来る事を書いた。私

の義父はIさんとほぼ同年代の80代前半だが車を運転する為、電車バスには乗った事が無い。▼義父は昭和30年には車を運転していたと言っからもう50年

以上車を運転している。私の旅館に来る時は相変わらず車利用である。同居の息子にそろそろ運転免許返上を勧められるが止められない。バス電車を使う習慣が無いからである。▼私

は運転免許は持っているが郡山、磐梯熱海間を電車で移動し、市内はバス、徒歩の利用を心がけている。出来れば車は運転したくない。タクシーも乗らない。理由は運転がすぎて無い。閉じ

られた車の中より街の中、駅の中の店の中の人間を観察するのが好き。乗り物に乗ったら乗客になり車窓からボーっと表を見るのが好き。人だけでも地球温暖化防止に役に立てばと思うから▼電車利用は時刻

表に束縛される為、行動も当然計画的になる。ところが義父に言わせるとこれらは全て移動の為の欠点になる。思った時に行動に移せない。乗車待ち時間が嫌である。大きい荷物も運べる。そしてどこに行くにも車となり、



運転席からの景色は楽しい

電車の時刻表を調べるのも嫌や、ポケットから小銭を出し切符を買うのも面倒になる。▼車の運転が出来なくなるとは、義父は車の運転が出来なくなつた時外出そのものが億劫になつてしまふ。一方、始めから車の運転をしなかつたIさんは足とバスとで健康で結構自由に動き廻る。

▼これは現代版ウサギと亀。蟻とキリギリスに似ている。車の運転をする皆さんにも早くから電車バスを利用する事を勧めたい。

(きらくや社長・村田英男)

郡山市熱海町4丁目39番
 磐梯熱海温泉
 磐梯熱海駅前



きらくや
温泉論 本誌

電話024-984-2130
 ホームページ: <http://kirakuya.jp>